

漆芸美術館だより



能登半島地震・奥能登豪雨復興祈念

コレクション展

(上段左から) 竹園自耕《花鳥紋飾篋》1932年 輪島市指定文化財 / 小西茂助《昔話沈金九つ組杯・杯台》1876年 / 前史雄《沈金春愁文漆箱》1989年 / (下段左から) 中国 彝族の漆器 / 三谷吾一《翔》1994年 / 山岸一男《沈黒飾篋「緑陰」》1980年

100

新館長就任のごあいさつ

能登半島地震・奥能登豪雨復興祈念 コレクション展

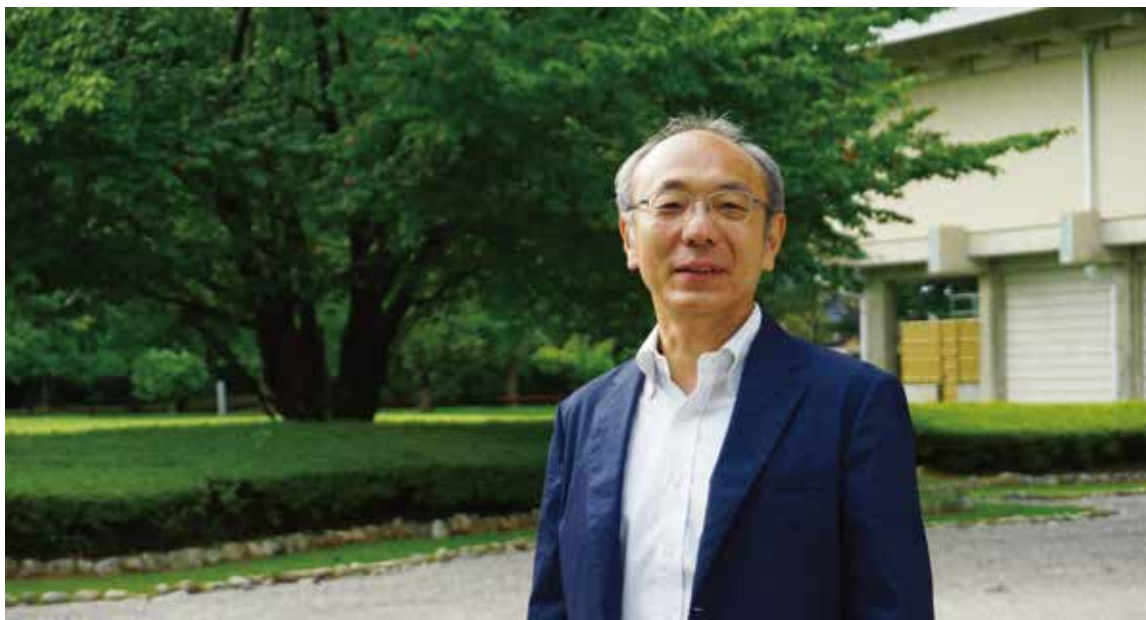
2023年度寄贈作品紹介

第80回現代美術展輪島展が開催されました

2024年11月23日発行

新館長就任のごあいさつ

山崎 剛やまざき たけし



令和6年1月1日の能登半島地震ならびに令和6年奥能登豪雨で被災された皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。4月1日付けで石川県輪島漆芸美術館の館長に就任いたしました山崎剛です。能登半島地震発災以降、漆芸美術館は休館していましたが、施設の点検と修理をはじめ復旧に向けた環境整備につとめ、11月23日より開館することとなりました。今も館の内外に震災の爪痕が残る状況での開館ではありますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

私は大阪市立博物館の学芸員、文化庁の文化財調査官を経て、金沢美術工芸大学の教員となり現在に至っています。日本工芸の歴史、とくに漆工史の研究を専門としてきました。漆芸美術館の展示企画委員会の委員、輪島塗技術保存会による大型地球儀「夜の地球」の監修など、輪島とのご縁をいただき、このたび館長の任に当たることを光栄に思うとともに、その責任を重く受けとめ、微力ながら尽力したいという意を強くしております。

漆芸美術館は平成3年9月6日に開館しました。『石川県輪島漆芸美術館10年のあゆみ』

の「開館までの経緯」に次のような一節があります。「住民一人ひとりが漆文化に誇りと愛着をもつとともに、漆文化に関する優れた集積機能をもち、優れた芸術作品に常時接する場となる「漆芸美術館」の建設が輪島市総合計画に盛り込まれた。これはまさに、21世紀を展望した、物と心の豊かさを誰もが実感できる社会の建設である。」

この21世紀の幕開けは、停滞が続く日本経済、不安定化する国際情勢、顕在化する気候変動、さらにはコロナ禍や大地震といった深刻な災害にみまわれる四半世紀となりました。そうしたなかで漆芸美術館は、物と心の豊かさを誰もが実感できる社会の建設という、輪島市が展望した夢を抱いて歩んできました。館の運営に関わったすべての先人に敬意を表し、困難に直面する今だからこそ、新しいページを開きたいと切に願っています。

職員一同、皆様の生活の復興を祈りつつ、ご来館をお待ちしています。

会期

2024年11月23日(土)

～2025年1月26日(日)

*年末休館

12月29日(日)～12月31日(火)

※会期中、館内外の修繕工事を実施する可能性があります。

工事内容によっては臨時休館となりますことをご了承ください。

決まり次第当館公式ウェブサイト、SNSにてお知らせいたします。

令和6年元日を襲った能登半島地震、9月の奥能登豪雨により、奥能登に暮らす人々が受けた傷は計り知れません。「輪島塗」は長きにわたり、この地の経済を支え、歴史を形作ってきました。その道のりには幾重もの苦難や興隆が連なっています。この度、当館が開館以来研究、発信し続けてきた漆芸文化を復興のよりどころととらえ、地域の誇りを再認識し、活力を高める機会として本展を企画しました。

輪島塗、輪島の作家に加え、アジアの漆芸を所蔵作品からご紹介します。



《朱塗宗和膳・椀》1862年



勝田静璋《草花蒔絵銘々盆》20世紀前半



小森邦衛《曲輪造籃胎食籠》1984年



《神像飾堆漆金彩供物器》20世紀 ミャンマー

祝・西勝廣氏

重要無形文化財「沈金」保持者認定

10月9日付けで西勝廣氏が重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。

これを記念し、展示室に特設コーナーを設けます。西氏は伝統的な沈金の技法を高度に体得し、点彫を主な技法として、身近な花を題材に制作を行っています。沈金の技とそれを生かした芸術性あふれる意匠をぜひご覧ください。



西勝廣 《沈金箱「楽園」》2005年

▼2023年度寄贈作品紹介

令和5年度は次の13件の寄贈がありました。
ご支援賜りました皆様に感謝申し上げます。

〔作品名／作者〕

・邂逅／榎木啓

榎木道子氏寄贈

・静寂／角康二

・スペース・アイ／角康二
・蝶・水・幻想／角康二

以上、角康二氏寄贈

・沈金色紙箱「怒涛」／水尻清甫

水尻清甫氏寄贈

・沈金草花文色紙箱／山岸一男

・沈黒飾篋「緑陰」／山岸一男

以上、山岸一男氏寄贈

・龍の凶彫漆椀／森下弘堂

・桜花素彫椀

以上、高橋珠世氏寄贈

・乾漆盛器／長内洋三

・乾漆盛器／長内洋三

以上、長内洋三氏寄贈

・私のパズル／田中貴司

・遠い記憶／田中貴司

以上、田中貴司氏寄贈

▼第80回現代美術展輪島展が

開催されました

2024年7月13日～21日の9日間、「第80回現代美術展輪島展」（主催：輪島市、（一財）石川県美術文化協会、北國新聞社、（二財）石川県芸術文化協会、MRO北陸放送、テレビ金沢）が開催されました。

能登半島地震の発生により多くの作家が被災したものの、輪島市からは日本画・工芸・書・写真部門に作品が出品されました。輪島展では、洋画・彫刻を合わせた6部門から、重要無形文化財保持者（人間国宝）や地元作家の優品、及び美術文化大賞をはじめとした受賞作品、あわせて35点を展示しました。輪島市内だけではなく、市外からも多くの方々にご来場いただきました。



施設情報

開館時間 9:00～17:00 ※入館は閉館の30分前まで

休館日 2024年12月29日（日）～12月31日（火）
※その他、修繕工事のため臨時休館となる可能性があります。
来館前には当館公式ウェブサイト、SNSにてご確認ください。

交通案内 *所要時間は道路状況により前後する可能性があります

- のと里山空港から 車（約30分）
- 金沢駅から 北鉄バス輪島特急線を利用（輪島ふらっと訪夢 輪島駅前まで約3時間）
- 金沢市内から のと里山海道を利用（約2時間）
- 「道の駅・輪島ふらっと訪夢 輪島駅前」から 徒歩（約25分）

〒928-0063 石川県輪島市水守町四十苅11番地
TEL 0768-22-9788 / FAX 0768-22-9789
www.art.city.wajima.ishikawa.jp

